

NPO K's Point

第5回 運営会議（総会）

開催日：2016年5月15日（日） 午後12時30分～12時45分

議長：森本 武（NPO K's Point 代表）

司会・書記：伊藤 あゆみ（NPO K's Point 事務局長）

目次

『NPO K's Point mission（目的）』（p.1）

【報告事項】

1. 活動報告

・2014年度後期／2015年度前期（pp.2-3）

2. 収支報告

・2014年度収支報告（p.4）

3. 2016年度活動計画（p.5）

・事業別年間計画

・出版事業

NPO K's Point

mission

目的

J. クリシュナムルティの思想研究をとおして、思考に依存しない生き方の可能性をさぐり、人間のいだけ不安の軽減、解消の実現をはかる。
より具体的には、「今」という絶対的現在を曇りなく生きる知性の存在を検証し、その成果を種々の活動、媒体をとおして広報する。

1. 本会は、一定の目的をもった慈善事業を営む資源を確保するため、営利事業にも節度をもって取り組む。
2. 目的の実現と手段は直結しているので、手段としての営利事業の取り組みにおいても、常に目的の内包する意義を逸脱しないよう細心の注意を払う。
3. 組織的成熟にむけて短中期的に構想するが、長期の見通しはもたない。

1. 活動報告 2014 年度後期／2015 年度前期

■ 2014 年度 後期 (2014.12.1-2015.5.31)

2014 年 12 月 1 日 K's Point DIGITAL News Letter 「insight 03」発行

2015 年 1 月 18 日 **Kの生活塾 第 22 回『自分が感じる「限界」の真偽をさぐる』**
(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

愛空を飛ばない自分に失望、絶望する人間はいないだろう。

人間は訓練で鳥になれない。そこを納得している「限界」は問題にならない。

何かを諦めたり、なにかに失望したとき、そういう状況をもたらした原因を、他者や、その時点の諸条件に見出すのではなく、自分の能力不足や人間的未熟さに求める場合が少なくない。

自分の「いたらなさ」。自分の「無力」。

確かに、それらが解決をもたらす障壁としてあったのかもしれない。

それにしても、自分の「限界」を、ひとはどのように認識すべきなのだろうか。

2 月 14 日 **講演会『超越的な力を知る』**

(マニホーヂュ) / 話し手: 森本武 (NPO K's Point 代表)

日常生活の重要性は、限られた肉体の人生においてのみ語られるものではありません。

日常を生きる、その場に、普遍的な力が常に働いています。それゆえに、その力に助けられること (安楽) もあり、その力に訓練を受けること (苦勞) もあります。

われわれの頭脳は、その力の「おもいやり」をしっかり理解出来ていないのです。

3 月 28 日 **Kの生活塾 第 23 回「正直な自己表現のもたらす結果」**

(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

自己表現は、自己の存在への慈しみから、きっと出てくるのだろう。主張の強弱はあるが、つぶやき、言い訳、自己の賞賛、訴求、批判など多様なかたちをとるものだ。

もし仮に真実そのままの自己が表現されるとして、それが本人に一体何をもたらすといえるのだろうか。

4 月 19 日 **探求の会「私の中にいる悪魔」** (池田文庫 広間)

「ブラジルで 1 匹の蝶がはばたくとテキサスで竜巻が起る」というバタフライ効果を信じるひとがいる一方、「あまりに微小な変化は、やがて減衰するだけだ」という理解を常識とするひともある。

微細な力は、往々にして鈍感な思考には拾い上げられないものである。そこで、認識力に限定されたわれわれの存在を容容させる不可解な要因が、確実に働いていることを自分では否定できない。

仮に、あなたの中に、想像を絶した形の「悪魔」が存在しても、その姿を覗き観る力や、その声を聞く力がなければ、その実在性は確認できない。「悪魔」が子供だましの空想的な名称にすぎないと確信する者は、どのように、その認識を形成したのだろうか。

5 月 17 日 **Kの生活塾 第 24 回「ひとはなぜ生きるのか」** (京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

生きる意味や理由を知って生きているひとがどれほどいるだろうか。

生き続けることが苦しくなったときにかぎって、「なぜ生きる必要があるのか」との問いを自分に突きつけたくなるのだが。

この問い自体の空虚さを考察すると同時に、生の実体に対して、われわれはどのような態度をもつべきなのかについても真摯に語り合いたい。

■ 2015 年度前期 (2015.6.1-2015.11.30)

6月14日 Kの生活塾 第25回『わたしの中にみる自然』

(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

わがままな自分に、ふと気づく瞬間、自分の意志とは違う意志が存在しているように感じる。身体生理の活動の反応であるか、他者の心からの伝導であるか、大宇宙の片隅から発された太古の魂のつぶやきか。

内なる世界における、あまりにかすかな「自然」の活動をもっと理解したいものだ。

7月4日 講演会『星の光と「私」の光』

(星ヶ丘学園 七夕祭) /話し手：森本武 (NPO K's Point 代表)

真っ昼間においても、天空に数えきれない星が輝いています。

われわれが星を認められないのは、太陽の輝きが一人勝ちで、その他の星を圧倒しているからです。存在していても、見えない。見えなくても、存在しているものは、昼間の星にかざりません。人間の中にある光をあなたは見ることができますか。

その光は実在しているのでしょうか、空想の産物にすぎないのでしょうか。

人間存在の根底に目をむけて、この内なる光の存在の意味を探りたいとおもいます。

8月9日 K語・観察会 第12回『理解』(チーム医療研修室/東京・大塚)

日常のことばとして「理解」という語は、なんとも穏やかな意味をもつ。健全な脳が正常な仕事をしているかぎり、大方の疑問は「理解」に至るようにおもえる。

「理解しているけれど、どうもじっくりこない。」煮え切らない「理解」の用例だが、Kにおける「理解」は、ほとんどこれとは別のことばのように厳しい。また、思考水準の納得とは隔絶した質を求める。

Kの「理解」を体得すれば、「理解」においてすべての葛藤が消滅し、不安が解消されそうだ。「理解」は強力な解毒薬であり、狭量な分別に対する爆弾である。

9月6日 Tea Party 『誰かの悩みを、自分の悩みとして探求する』

(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

誰かの抱える悩みを、参加者がまるで自分の問題のごとく受け取り、皆でその解決に向けて、意見を交換していく、という実験的な内容です。

9月27日 K語・観察会 第12回『理解 京都編』(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

10月3日 「ニューブランシュ KYOTO, マチデコ・インターナショナル 2015」

(京都国際マンガミュージアム)

美術家で、K's Point 会員でもある江村耕市さんが「江村耕市+ emurabolo (エムララボ)」として出品した映像作品に、本会代表の森本武が、アナーキー・タケとして詩を提供。

10月3日 Kの生活塾 第26回『神秘的な力に出会う』(京都嵯峨芸術大学・京都市右京区)

わがままな自分に、ふと気づく瞬間、自分の意志とは違う意志が存在しているように感じる。身体生理の活動の反応であるか、他者の心からの伝導であるか、大宇宙の片隅から発された太古の魂のつぶやきか。

内なる世界における、あまりにかすかな「自然」の活動をもっと理解したいものだ。

11月22日 講演会『食と霊的健康』

(阿倍野市民学習センター) /話し手：森本武 (NPO K's Point 代表)

栄養学にもとづいた食養は、タンパク質、脂肪、ビタミンなどの物質的な要素をとりあげ、主として肉体の健康を問題にしますが、健康とはもっと大きく、深い概念なのです。

人間は、見える肉体のみならず、見えない多次元なカラダをもっています。それらの不可視なカラダに自己の実体が隠されており、病気の多くがそこから現れ出てきますが、そのように理解しているひとは少ないようです。

今回は、神智学、波動理論、古代ヨガの身体論等の観点から最善の食を究明します。

2. 収支報告

2.1

2014 年度 <第 4 期> 収支報告 (2014.6.1-2015.5.31)

■ 収入の部

(勘定科目)	実績
イベント事業収入 徴収したイベント参加費・講演料・「Kの生活塾まとめ払い」など	100,800
相談事業収入 「対話プログラム」の収益	0
出版事業収入 出版物の売上げ	45,905
会費収入 年会費	154,000
寄付金収入	6,300
雑収入	1,500
[合計]	308,505

■ 支出の部

(勘定科目)	実績
イベント事業費 会場使用料・交通費・備品使用料など ※飲食代は含まず	79,066
相談事業費 「対話プログラム」にかかる費用	0
出版事業費 出版物発行にかかる費用	143,830
通信費 書籍の発送料・ウェブサイトの維持管理費	7,020
雑費	366
[合計]	230,282

注：スタッフへの給与等は含まない

3. 2016 年度活動計画

事業別年間計画

■ イベント事業

- ・ K の生活塾 [会員限定] : 4 回 ※日程とテーマは下記参照
- ・ 講演会 : 2 回
- ・ 探求の会 [会員限定] : 1 回
- ・ K 語・観察会 : 1 回
- ・ その他イベント : 1 回

※イベントの回数・内容等は、は予告なく変更される場合があります。

【2016 年度 K の生活塾 日程とテーマ】

2016 年 6 月 26 日 (日) 第 29 回 『思い出とのつき合い方』

2016 年 10 月 1 日 (土) 第 30 回 『話す／聞く』

2017 年 1 月 21 日 (土) 第 31 回 『後悔の正体』

2017 年 5 月 14 日 (日) 第 32 回 『ちいさな不幸と大きな不幸』

■ 出版事業

会報に代わる出版物として「祈り」をテーマにした文庫本の出版

■ PDF 版 ニュースレターの発行

本会ウェブサイト上で公開している、Digital News Letter 「insight」を、年度内 2 回を目処に発行

NPO K's Point
www.kspoint.com

617-0006 京都府向日市上植野町北小路 42-6
Email kspoint1998@yahoo.co.jp